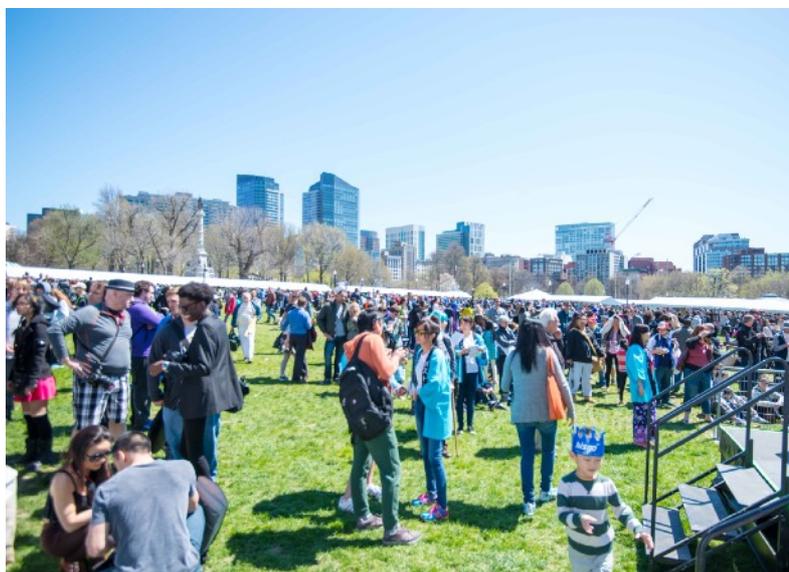


日本ボストン会 会報

第47号



ボストン日本祭り
(ボストンコモン)



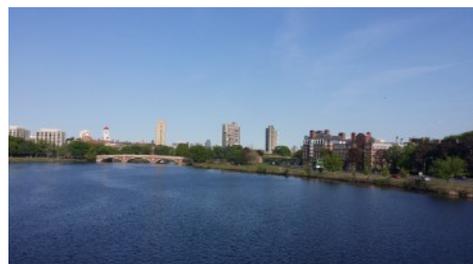
日本ボストン会会長退任のご挨拶 会長: 佐藤 信雄

早いもので日本ボストン会会長の重責を担わせていただいてから任期の2年があつという間に過ぎました。この間何もわからない新米会長を多くの幹事と会員の皆様が支えてくれましたこと深く感謝いたします。また会長として貢献できたことが少なく、力量不足を痛感しております。

2年前を振り返りますと就任に当たり、事務局を務める鶴さんご夫妻を中心に幹事の皆さんが大変しっかりとされていらっしゃることから、私に出来ることが果たしてあるのかまた私にしかできないヴァリューとは何かと考えました。そして現職（ハーバード・ビジネス・スクール日本リサーチセンター長）ではボストンに年3回出張することがあるので、この出張を何とか活かさないかと思うようになりました。

一方で、新規の会員が増えていないことをお聞きし、また既存の会員と幹事の年齢が上がっていることからこのままでは素晴らしい当会の存立が将来危うい状況になることを危惧いたしました。

そこで、私の役割は日本とボストンの橋渡しをしてボストン在住の日本人やボストンから帰国される方を新規会員として募ること、またそれが自動的に流れる仕組みを作ることといたしました。具体的には、ボストン日本人会会長の中塚さんにお会いして、会員の方が帰国される際に当会への入会を促していただくようお願いすると同時に、会報に当会のリンク先を付けて頂きました。また、ボストン日本祭りの事務局をやっているJREXの八代さん、青谷さん、オーウェンズさんとお会いして当会の存在を知ってもらい八代さんと青谷さんに会員となっただき、お三方のご存知の方でボストンとゆかりのある方をご紹介い



ただき、会員の勧誘をさせて頂きました。またJREXに一方的にお世話になるのは申し訳ないので、ボストン日本祭りへの寄付を幹事会で募らせていただきました。さらに、ボストンで大学院生をやっている方をご紹介いただき、日本人留学生の間にも日本ボストン会の存在を知ってもらうようお願い致しました。

この様にいろいろと試みましたが、新規会員の人数はこの2年間で両手以上には至りませんでしたし、ボストンから帰国する方が自動的に当会に入会するような流れ・仕組みはまだ出来上がっておりません。私といたしましては、会長職を降りてもボストンへの出張が有る限り、引き続き新会員の勧誘とこの仕組み作りには貢献して行きたいと思っております。

尚最後にいくつかお願いがございます。一つには新会員になった方をwelcomeする機会を作っていただけではないかということです。新会員の方が既存の会員の方々に会う場は現在各種のイベントか年1回の総会に参加することだと思いますが、そもそも他の会員を知らない新会員がイベントに参加するのはハードルが高い気が致します。二つ目に新会員同士が交流できる場もあれば新会員同士で誘い合ってイベントに参加することもできるようになる気が致します。その為に新会員を含めて会員同士が交流できるフェイスブックのページを作っていただけではないかと思えます。特に若い会員を募る上でも、フェイスブックのようなSNSは大変有効だと思います。そして新会員の方が当会の素晴らしさを実感し、彼らの紹介で新たな会員が入ってくるような自律的な仕組みが出来ればよいかと思えます。

以上2年の間皆様のサポートを得ましたことに感謝しつつ、日本ボストン会の末永い発展をお祈り申し上げます。

ボストン日本祭り

ボストン日本祭り実行委員 / JREX事務局

オーウェンズ美穂

昨年に続いて2度目のボストンコモンで開催されたボストン日本祭りは、天候にも恵まれ、昨年の2倍の来場者となり、6万人の方々にお越しいただきました。今年も日本ボストン会の方々から寄付をいただき、実行委員会一同、心より感謝しております。

出店者数も昨年よりかなり増え、特に今年初めての試みとなったワークショップは在ボストン日本国総領事館の方々に全面的にご協力いただき、ボストンはじめ、ニューイングランド地方のアメリカ人の方々にいろいろな日本文化を紹介する素晴らしい機会となりました。

NEXT EVENTS

奮ってご参加ください

総会

日時: 11月18日(金)

開場: 午後6時

開演: 午後6時半

会場: NEC三田ハウス
芝クラブ

会費: 6,000円(当日払い)

5,000円(事前送金)

同伴者: 5,000円

申込・問合せ: 

ゴルフの会

日時: 11月25日(金)

午前8時22分スタート

場所: 川崎国際生田緑地
ゴルフ場

会費: 4,000円(賞品代及び
パーティー代)

集合: 8時10分 10番ティー

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: 

紅葉狩りの会

日時: 11月27日(日)

集合: 六義園正門

午後4時30分

チケットは各自購入

300円

(65歳以上150円)

紅葉狩: 午後4時~5時30分

六義園ライトアップの
紅葉

会食: 午後6時~8時

六義園・駒込駅周辺の
イタリアレストラン

(未詳)

費用: 5,000円前後

(飲み物別)

また、イベント終盤では来場者参加型の盆踊りと和太鼓で大いに盛り上がり、最後にはステージ上で実行委員会メンバーが蛍の光を熱唱して幕を閉じました。



ステージの1つは日本やボストンで活躍する日本人のアーティストによるライブや、ニューヨーク/ニュージャージーからキッズダンスチームを招いたダンスパフォーマンス、そしてもう1つのステージでは、アメリカでは大人気のコスプレ関連パフォーマンス、雅楽、そして地元の子供たちを含む素人パフォーマーによる出し物で会場をにぎわせていました。

フードブースも昨年の14軒から22軒に増やし、ファストパスという並ばずに買える仕組みを導入して、昨年の悩みの種となっていた行列も少し回避できたようです。

今年は規模が大きくなっただけでなく、ボストン市からの規制も厳しくなったことからコストも膨れ上がり、昨年の繰り越し分がなければ赤字となってしまう今年の日本祭りだったのですが、ボストン市の公園局からは、素晴らしいイベントだったので来年の日程も今のうちに確定させようと、総領事を通して話を進めていただいています。

去る8月9日には、シンガーソングライターの原田真二さんをお招きして、ボストン日本祭りのためのファンドレイジングイベントも行ないました。ボストンを初めて訪れたという原田さんは、来年の4月のボストン日本祭りでも是非歌いたいと言っていますので、さらに多くのスポンサーを集めたいと思っています。是非とも日本ボストン会の皆様にもご協力いただければ幸いです。

理念の1つである100年続く祭りとなるよう、今後ともボストン日本祭りをどうぞよろしく願いいたします。

MIT 2016 Celebrating a Century in Cambridge

長島雅則

Massachusetts Institute of Technology (MIT) にとって2016年は特別な年でした。それは、1916年にキャンパスをBoston市からCambridge市の今の場所へ移したからです。現在のキャンパスで丁度100年を過ごしたことになり、それをお祝いする各種イベントが2月29日から6月4日まで催されました。

NEXT EVENTS

奮ってご参加ください

(紅葉狩りの会)

申込日時:

第一次10月1日(レストラン予約のため)
最終締切11月18日

申込・問合せ: 

伝統お芸能の会

国立劇場50周年記念

歌舞伎公演観劇会(予告)

日時: 2017年3月12日(日)

開演: 12時(午後4時20分終演予定)

1等A席40名様(9,000円)

※1割引

演目: 国立劇場歌舞伎

「伊賀越道中双六」

中村吉右衛門主演

食事: 3階向日葵で1,500円

募集: 2016年12月12日～

2017年1月23日の

予定。

応募要領は後日HP、

メール等でお知らせ

いたします。

今回も日本ボストン会

茂木元会長のご尽力に

より、開催できること

になりました。

<http://mit2016.mit.edu/>

私は、5月6日・7日に催された一連のMIT Campaign & centennial of the Institute's moveというイベントに参加いたしました。

6日の午後6時から、Campaign Launch Gala Dinnerがキャンパス内のBriggs Fieldという運動場に設置された2つの巨大なテント内で行われました。前方の円形のテント内でMITでの研究成果が展示されており、奥の平たいテントは500人以上収容するdinner会場でした。写真は私のテーブルです。余談ですが、最近の料理は、美味しくなりました！



翌日の7日には、講演会+昼食会、Crossing the Charles River、そして、夜にはThe Centennial PageantがMcDermott Courtでありました。

この2日間のイベントは、とても楽しいものでした。

MITが、この世の中で、多くの分野の発展に貢献していることを実感しました。そして、私もこの組織に身を置いた者として、幸せな思いを強くしたと同時に、この世の中に対して微力ながら貢献したいと強く思いました。



2016年5月27日の抱擁 水野賀弥乃

2016年5月27日広島。オバマ大統領に抱きしめられた森重昭氏。あの歴史的瞬間の、「歴史の一頁」の証人となったのは、日本人だけではなかったであろう。森氏の40年間の「隣人への愛」がオバマ大統領に通じ、日米の真の平和の礎が生まれた瞬間であったと私は思う。

時間を戻し、4月13日の午後3時。私は外国人記者クラブにて、日本ボストン会の会員方々とも旧知のPeter M. Grilli氏がプロデューサーをなさったドキュメンタリー映画、“Paper Lanterns”の上映会に参加していた。マサチューセッツ州ビレリカ在住のBarry Frechette監督と広島在住の森重昭氏もGrilli氏とともに記者会見に臨み、「この映画をオバマ大統領やケリー長官が鑑賞する予定があるのか。」等の質問を受けていた。何の予備知識もないまま参加した映画会であったが、人間の深き愛を目の当たりにした衝撃と思いがけない出逢いがあった。

“Paper Lanterns”は、広島原爆で亡くなった12人の米軍捕虜について40年間こつこつと単独で調査し、米国中にその遺族を探しあて、亡くなった捕虜の広島での状況を伝えようとした森氏と、そのうちの二人の捕虜の故郷での姿とその遺族を追うものである。8月6日の夜、一緒に灯籠流しをする森氏と米軍捕虜遺族の姿を静かにカメラが映し出す。森氏の米軍捕虜への敬意は、Frechette監督の森氏への敬意となってこの映画は生まれた。日本人が気づかずにいた森氏の偉業に深い思いを寄せた監督に、私は心からの敬意と感謝を表したい。

12名の米軍捕虜の詳細（爆撃機「ロンサム・レディー号」の乗組員6名、「タロア号」3名、グラマン戦闘機1名、小型爆撃機2名）をたったおひとりで調査し、その上で全員の遺族を全米50州に探し出した。森氏は被爆遺族の痛みや悲しみを、米軍捕虜の遺族も同じように抱いているのだから、異国の地でどのように亡くなったのかを伝えたいという篤い思いの一心で、この気の遠くなるような調査をヤマハにお勤めの傍ら続けられたのである。米国の遺族は被爆死であった事実を知らされていなかった。森氏は見つけ出した被爆米兵の名前を被爆者として平和祈念資料館に登録した。マサチューセッツ州ローウェル出身の19歳のNormand Brissette三等兵曹（SB2Cヘルダイバー小型爆撃機）の姪と、ケンタッキー州出身Ralph Neal軍曹（ロンサム・レディー号）の甥がそれぞれに来日し、広島で森氏と出逢い、ともに亡くなるまでの足跡をたどった。彼らの出会いの抱擁はまさに大統領との抱擁の真なるものに変わりはない。それに遡る1999年、森氏は12名の被爆米兵のために銅製の記念碑を建てていた。

5月27日、物静かな森氏の、「昨日の敵」であった「隣人」への深い愛情が、国家間の、否、世界平和の実現を目指そうとする真の礎となった瞬間がオバマ大統領との抱擁であったと私には映り、その証人となれたことの喜びを感じた。同時にこの映画のプロデューサーであるGrilli氏のお働きが、この歴史的瞬間に大いに貢献していることにリアルタイムで感動し、日米の懸け橋としてのGrilli氏を大いに誇りに思った。

映画の冒頭で森氏が小学三年生の時に被爆したと語る。御自宅の食堂で佳代子夫人が「私は3歳でした」と語る。原爆で亡くなった私の長姉も三つであったことから、みるみる佳代子夫人が、会うことが叶わなかった姉のように映り涙が溢れた。映画の終わるまで泣き通しのみっともない顔で、佳代子夫人のそばに駆け寄った。佳代子夫人と話し、ついには思いがけずにも、私の亡き従姉の友人でいらしたことが判明した。従姉の父（私の叔父）と母の妹でボストン大学に留学していた叔母のこともご存じで、手を取り合って世間の狭さを祝福した。広島での従姉の葬儀の折にはとてもお世話になっていた由、東京から駆けつけた教会で、すれ違っていたのだ。以来、

勝手に親しみを抱き続けている。森氏は現在、長崎で被爆した捕虜の調査が続けられている。杖をつかれて歩かれる森氏を心身ともにお支えになる佳代子夫人、御夫妻のご健康をいつまでもいつまでも祈り上げる。「平和を築く」とは、お二方のような静かなる深き愛と信念からの行動力のなせる人間存在あってこそと思うのである。

ワーキンググループ活動報告

お花見の会

生田英樹、小野田勝洋・富子

お花見の会は今までずっと都内での会が続きましたので、目線を変えて鎌倉にしてはどうかということになり、先ずは下見ということで経路と時間を確認するために、1月下旬に幹事は鎌倉歩きをしました。予想はしていましたが、1月も下旬というのに鎌倉は人出が多く、道は狭いので、お花見の頃はさぞや混雑し、千鳥ヶ淵のように歩くのに時間がかかるのではとの心配はありましたが、一度鎌倉でという思いは強く、鎌倉で決行することになりました。



4月2日、北鎌倉駅前1:00集合。3:30過ぎからの食事会を念頭に、各自軽いランチを済ませて集合。参加者は幹事を含め16名。当日は肌寒い陽気でしたので皆様寒さ対策も十分。天候のせいでしょうか、不思議なことに人出が少なく、これは我々にとってラッキーなことで、狭い鎌倉の道を一同悠々と歩き、途中桜を初め、色々な春の花を愛でながら建長寺へ到着しました。

建長寺では山門近くの桜が満開でのお出迎え。禅宗臨済宗建長寺派の大本山。剛健にして格式高い建物をそれぞれ見物し、静謐な境内を散策し、約1時間を過ごし、鎌倉八幡宮に向かいました。建長寺から八幡宮への移動は徒歩15分程。八幡宮の鳥居のある参道からではなく、本殿のすぐ横に出る道から入り、本殿に出ましたがさすがの賑わいでした。

舞殿で結婚式も行われていました。順番を待つ花嫁さんもきれいでした。



WG活動（2016年春～2016年夏）

2016年（平成28年）

4月2日

お花見の会（鎌倉）

4月16日

ハイキングと山の会（高尾山）

4月21日

春季ゴルフコンペ（川崎国際生田緑地ゴルフ場）

5月21日

美術と歴史の会（神奈川県近代美術館）

6月5日

音楽の会（ジャズコンサート）

本殿から坂を下りて宝物館の横を通り、源平池に出ると池の周りは満開の桜でした。

源氏池のボタン園から見る、池にかかる桜の美しいこと。そこから参道の鳥居のところに集まり、修復なった段蔓を歩きました。段蔓は鎌倉時代から続く歴史遺産の道ですが、寄る年波に痛みが激しくなり、改修が行われ、この3月末に改修が完了し、一般公開となりました。

桜の若木が並木として植えられ、その若木にはもうお花見ができるほどの花が咲いていました。段蔓のお花見をしながら鎌倉駅に到着し、駅近くの「鯉乃助」で和食懐石を和気あいあいといただきました。美味しかった！！お花見の話題を肴にお酒も進みました。

夕方5:00過ぎに鎌倉駅前で散会。楽しいお花見でした。

高尾山ハイキング

中埜岩男

平成28年4月16日晴れ。JR高尾駅前9時集合、土居さん、篠崎さん、中埜夫妻の計4人。小仏行バス待ちの長蛇の列に並ぶ。次発のバスにやっと乗れた。終点の小仏バス停で下車。まず、車道を歩き、小仏峠登山口からは少し急な登りの山道となった。路傍の花を見たり、雑談しているうちに、小



休止。近くに明治天皇ご休息所の碑があった。登り再開。小仏城山の桜は満開を過ぎていたが十分に楽しめた。ここで昼食。篠崎さんは名物のなめこ汁に舌鼓。満開の桜の前で記念写真。次の一丁平には見頃の桜が多かった。満開の桜をバックに写真撮影。階段を下りていく途中でミツバツツジを見つけた。脇道に入って満開のミツバツツジを鑑賞。もみじ台の先の高尾山山頂への分岐点で、土居さんは階段道を、他三人は5号路を通って高尾山山頂に到着。山頂で集合写真。新しくなったビジターセンターを見学。6号路で下山。6号路の斜面にはシャガが一杯咲いていた。山道から沢

道に入った。飛び石が濡れて滑り易かった。沢道を抜けて一安心。中間点付近の橋の傍の休憩所のベンチで小休止。修行の滝琵琶滝を眺めながら山道を下り、登山口から平坦な道に出て、清滝駅前広場にてハイキング終了。最後は極楽湯で温泉三昧。檜風呂、熱い岩風呂と炭酸泉他。館内の食事処で、ビールで乾杯。締めはとろろそば。高尾山口駅のプラットホームで解散。お疲れ様でした。

春季ゴルフ懇親会

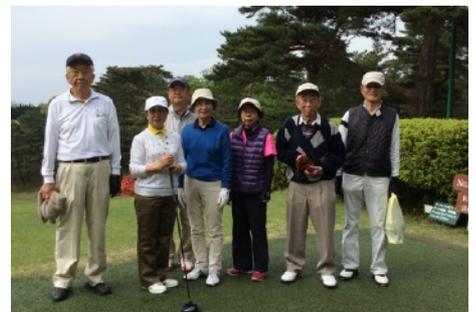
山崎恒

春爛漫の4月21日、川崎国際生田緑地ゴルフ場において、ボストン会春季ゴルフ懇親会が開催されました。

今回の参加者は、7名と少なめでしたが、春の陽気を満喫しました。伊藤敦子さんが見事優勝されました。

次回は、ご案内の通り、11月25日に開催されます。当方の希望は、11月17日だったのですが、1時間ダイアルを回し続けてようやくつながった電話で、3組が取れたのは、ご案内の11月25日ということでした。

なかなかうまく行かないものです。



神奈川県近代美術館 葉山館 見学記

篠崎和子

5月12日晴天に恵まれ喜んだのもつかの間、東海道線、横須賀線が変電所の事故でストップしてしまい皆さんそれぞれ遅れてしまいましたが、無事到着することができました。

原田直次郎展と同時に明治の17名の画家の美術コレクションを鑑賞しました。

日本の画家が油彩画を盛り上げようと海外に留学したり、病気になったりして苦勞した様です。そのせいか絵が色彩も暗く全体として暗い絵が多いでしたが、初期イギリス人ワグマン(新聞特派員)の薫陶を受け光をうまく取り入れて明るい絵も何点かありました。

また、ロケーションが高台の海辺にあつて明るくランチも美味しく最高の立地の美術館でした。そのあと昭和天皇閣下がご利用になった「葉山しおさい公園」に寄り素晴らしい大きな滝を見、マイナスイオンを一杯戴きました。そのあと駅前の魚屋に寄り新鮮な魚を買い、良い土産が出来ました。



音楽の会

関尚子

2016年の日本ボストン会音楽の会は、ジャズピアノによる午後のひと時。当会でのジャズ・コンサートは3回目でした。

今回はヒロ高田氏によるジャズの歴史のレクチャと演奏で、休憩を含め2時間半に及ぶ

演奏会となりました。プログラムの一部を下に載せますが、ヒロ高田氏の熱意が伝わってくる内容でした。アンコールが終わった時、私達は音楽のつばさに乗って夢見る頃にタイムワープした、幸せな気持ちに浸りました。

ヒロ高田氏は28歳でアメリカに渡り、バークリー音楽院(77~80年)で学び、更にジュリアード音楽院(89~90年)にて近代作曲を学びました。今回も氏の作曲による曲が演奏されました。リズムのこと、アメリカでの演奏のことなど、大変充実した内容でした。ご子息にもお手伝いいただき、感謝です。



プログラムの例：

移り行くJazzの流れ by ヒロ高田

- ・1980年代から現代まで
- ・Swing時代
- ・モダン期
- Bebopスタイル -Bossa nova jazz
- Mode style -My Original -Pop jazz

また音楽の会で演奏して頂き、当会の会員でもある下記の皆さんの演奏活動を応援してください

い：

- ・大沼岳彦
- ・生田敦子・恵子
- ・笠原慶昌

日本ボストン会事務局 
〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6

会報の原稿を募集します。内容はボストンやニューイングランドに関連のあるものとします。ご寄稿頂ける方は、掲載についてご相談をさせた頂きたく、事務局までご連絡ください。連絡先：